

令和5年度学校評価(中間)

学校名(宮島小・中学校)

評価計画					自己評価				コメント	改善策	
中期経営目標	短期経営目標	活動のめざす姿	評価項目・指標	目標	中間月	最終月	達成	評価			
小中一貫教育のよさを最大限に生かす学校運営	4・3・2制のメリットを生かして、9年間で育てる。	自治活動能力を育成するために、ブロック活動(ブロック朝会、ブロックごとの行事)を充実させる。	「ブロック目標を達成することができた。」と答えている学園生の割合(4, 7, 9年)	80%	【前期】100% 【中期】68.8% 【後期】86.2%		115	A	【前期】どの学年においても自己評価が高い。目指す姿を意識させたり行事等のたびに目標と振り返りを行ったりすることで、ブロック目標を意識して目指す姿の共通認識を図った成果である。一方で教職員の見取りとはズレがある。  【中期】5, 6年生は目標を「意識する」だったため肯定評価が高く、7年生は目標を「達成する」だったため肯定評価が低かった。どの学年も、「自己をふり返り、自律する。」に課題が見られる。  【後期】目標を意識して活動に取り組んでいるが、活動中の緊張感、報告や意見発表における深い考察が欠けている生徒がいる。今後はさらなる「質の向上」を目指し粘り強く指導していく必要がある。また、「ブロック目標を達成できた」の教職員評価が80%を下回っている。明確な「リーダー像」を生徒に伝えきれていないことによる教師生徒間のずれが原因と考えられる。	7年から宮島学園に入る子がいるので、その子たちにも早くブロックや小中一貫の良さを理解してもらえるように取組を考えてほしい。	【前期】2学期はじめのブロック朝会でどんな姿が目標を達成した姿かを、前期の学園生にも分かるように目標の具体化をし説明をする。ブロックで集まる機会では、ブロック目標と照らし合わせた振り返りを行う。  【中期】目標の掲示を行い、目標を意識して生活できるようにする。各行事でブロック目標を活用する。行事ごとに異なる学園生にリーダーの役割を与える。  【後期】1学期は取組に個人差がでた。2学期は全員が目標を達成するため、継続的な指導と全員が練習する機会(掃除・委員会などの異年齢活動)を与える。また、明確なリーダー像を生徒に周知するため、具体的なリーダーの要素を文字で掲示し、異年齢活動を中心に、平日頃から生徒に意識させる。
			「ブロック目標を達成しようと思えることができた。」と答えた学園生の割合(1, 2, 3, 5, 6, 8年)	80%	【前期】87.0% 【中期】84.0% 【後期】77.5%		108	A			
地域の財産(歴史、文化、自然)を学ぶ教育体系の確立	自己の将来、宮島の将来を考える力を育てる。	生活・総合的な学習の時間の授業で、地域の教材をもとに考えたことを、ICTなどを活用して自分のことばで表現させる。	「自分が伝えたいことを筋道立てて伝える力がついたら。」と答えた学園生の割合	70%	82.9%		118	A	前期ブロックからタイピングができる姿を見て驚いた。学園生の表現力を高めるために取組を進めてほしい。	・2学期以降は、朝の会・帰りの会や授業で模範となる例を示したり、ICT機器を活用して、表現したいことを書いたり、ICT機器で友達の考えを見て、自分の考えを広げたりして、これまで以上に表現する場を設定して発達段階に応じた表現力の底上げを図る。達成度や改善を図るために、タブレットを使うことで「文章が書きやすくなった。」「発表しやすくなった。」という学校評価のアンケート項目に入れ、教職員の意識づけを行う。 ・次の課題を見つけていく学園生には、ゴールを明確にして具体的にそこに向かっていくための視点を与えて取り組ませ支援する。	
			「単元の『振り返り』を通して、次にやりたいことを見つけています。」と答えた学園生の割合	70%	74.4%		106	A			
多様な学園生の育ちの場の提供	基本的な生活習慣(あいさつ)の確立をさせる。	発達段階に応じた行動目標を見出し提示し、その姿を日々評価する。	「あいさつは、自分から進みます。」と答えている学園生の割合	90%	89.9%		99	B	学園生は、地域で出会ったときにしっかりあいさつしてくれるので、今後自己評価が上がると思う。最近是不審者扱いされないために、自らあいさつせずに見守る大人が増えている。	・2学期以降は、朝の会・帰りの会や授業で模範となる例を示したり、ICT機器を活用して、表現したいことを書いたり、ICT機器で友達の考えを見て、自分の考えを広げたりして、これまで以上に表現する場を設定して発達段階に応じた表現力の底上げを図る。達成度や改善を図るために、タブレットを使うことで「文章が書きやすくなった。」「発表しやすくなった。」という学校評価のアンケート項目に入れ、教職員の意識づけを行う。 ・次の課題を見つけていく学園生には、ゴールを明確にして具体的にそこに向かっていくための視点を与えて取り組ませ支援する。 ・ブロック会でブロックリーダーが呼びかけるなどしてあいさつへの意識を高める。 ・教員や学園生が何かをしたら「ありがとう」の言葉かけをする→「あいさつ」につなげる。 ・全教職員が学園生と関わる、あらゆる場面(授業、掃除、休憩時間等)において、「学園生自らがあいさつできる」声かけや推進(取組)を必ず行い、模範となるようにする。学校評価の項目に入れ、意識づける。 ・生徒指導上の問題は少ないが、アセスやアンケートを活用し、未然防止の観点から、特に学園生同士のつながりを意図的に築き上げる。また、特に困り感のある学園生に対しては、個別にカウンセリングにつなげ、歩く会を通じて、内容や支援方針を職員朝会や報告書で共通認識する。 ・異学年交流などの活動を仕組む際、どのような力を身に付けたいのか明確にできるよう、全教員に異学年交流の心得を配付する。	
	多様な価値を受け入れ、認め合える集団をつくる。	学園生の特性に応じた支援について外部の専門家と意見交換し、内容や支援方針を全教職員で共通理解する。	「宮島学園は、安心して過ごすことができる学校です。」と感じている学園生の割合	90%	94.6%		105	A			
ワークライフバランスのとれた元気な職場	目的やスケジュールを意識することで、組織的な取組を実施する。	目標達成に向け、行事のスケジュールを意識し企画運営委員会、分掌会及びブロック会を計画的に実施し、状況を共有する。	タイムマネジメントを意識することで、「時間・余裕をもって業務することができた」と感じている教職員の割合	67%	50%		75	C	先生が島内の行事に参加してくれるので、子どもの自信につながっていると思う。ありがたい。宮島で動いてよかったと感じる先生を増やしたいので、先生方に島内の行事にもっと関わってほしい。	・今後も引き続き前もって、月例予定表、進捗管理表を改善するたびに配付する。 ・締め切りの期日が明確になるように月例予定表に分掌のすべき取組を入れ、視覚的に意識させるとともに、声かけをする。 ・学年や専科などの取組については、別紙を準備し関係者に配布することにより、取組内容を意識させる。	
			「宮島学園で働いてよかった」と感じている教職員の割合	90%	94.4%		105	A			

※ 「評価」の項目については、「達成度」は「報告期の数値/目標値」である。  
「目標値」に対する「達成度」をA~Dで評価する。(A:100% B:80%以上 C:60%以上 D:60%未満)  
逆転項目の評価については、A(目標値以下)B(目標値~前回数値)C(前回数値より悪化)とする。